

年末年始風景②

「おやす」作りと同時に「門松」「締め縄」作りで迎春準備は完了し、元日の朝を迎えます。すべて材料は、自然の恵みを利用させていただき大半裏山で採取しています。



大晦日の朝は忙しく手洗いを済ませるとまずストーブに火入れを行ないます。

「おやす」作りと同様に秋に収穫したわらを準備します。



藁を「なって」ゆきますが、説明をうまく出来ません。2つの藁の束に「より」をかけながら「ねじり」あげます。

毎年2本作ります。およそ60cmと120cmぐらいの物をつり、締め縄用と門松用になります



毎年同じ物は作らない様にしています。今年の特徴は輪を斜めに稲穂を数束飾りました

家で取れた葉付きのみかんと「うらじろ」というシダと「かみしで」を付け完成



飾り付けた今年の締め縄

玄関先に門松を建てます。材料はすべて裏山。松、榊、都笹、フクラ(ソヨゴ)、南天、ウラジロで構成。「かみしで」を付けたしめ縄を掲げ完成。



元旦の朝、国旗を掲げ新年を祝います

元日の朝は、家主(小生)7時に起き、茶を沸かし、灯明をたて、般若心経3巻唱え、ストーブに火入れをし家族が起きるのを待ちます。



全員集まり、新年の「お屠蘇」「雑煮」を囲炉裏を囲んで戴きます。

今春初めての囲炉裏部屋での頂き物です。感謝。



毎年同じことの繰り返しですが、山里の大晦日と元旦の日は質素です。自然の中で恵みを貰う事への感謝の気持ちと共に春を迎え一年が無事に過ごせるように願う気持ちがこの風景の中には見て取れるような気がしています。